

Living Water

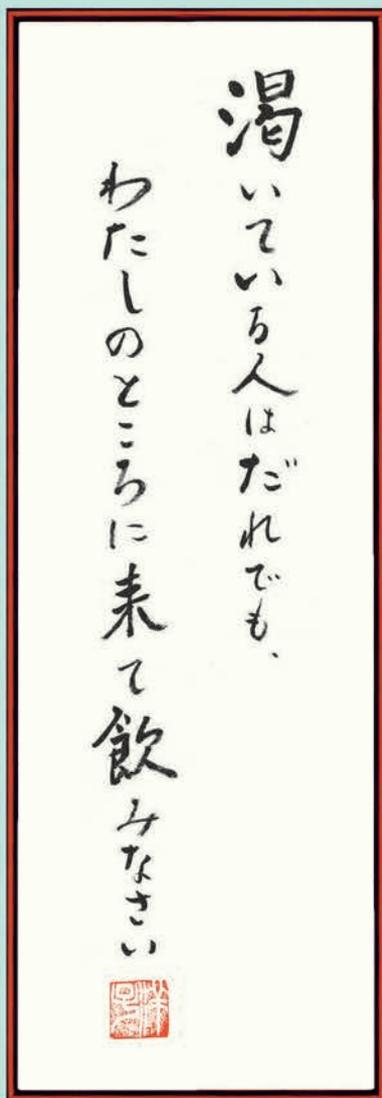


吉田 2024
吉田

145

数字の秘密は2ページへ

聖書のことば



2024年度 学院聖句

ヨハネによる福音書 7章37節

水は人間生活になくはならないものです。水は私たちの体の渇きを潤し、命を支えるものです。水は荒野をも農業ができる地に変えられます。水は小さな泉から湧き出るが、やがては川になり、その勢いを止めることはできないのです。水の無い世界は考えられないでしょう。

イエスは「**渇いている人はだれでも、わたしのところに来て飲みなさい**」とご自身を水に例えています。人間が覚える渇きはそれぞれ違うと思います。絶望、無力、病などがあげられるでしょう。これらのものは人間の心を荒廃させるのです。イエスはこういう人の命であることを学院聖句は教えるのです。2024年は活水学院創立145周年を迎える節目の年です。もう一度、建学の精神に立ち帰り、イエスが与える力によって閉塞の時代を切り拓いていくことを願いましょう。

(学院宗教主任 崔 炳一)

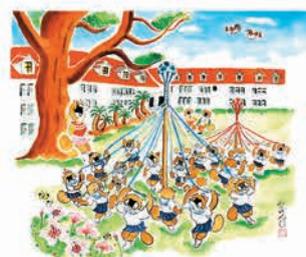
目次

- 2 聖書のことば
- 3 KWASSUI History 5
メイボールダンス
百有余年の歴史を刻む活水の伝統
- 4 社会が求める人×活水が育む人
うつりゆく世にもかわらないもの、かわりゆくもの
- 6 特集 大学4年間で学んだ集大成
影山 桃さん
田代 結子さん
- 8 先輩たちの今 Close up ⑤
湯屋 敦子さん
- 10 女子大学生が挑む！
長崎における魚食の普及推進
～長崎の水産業を支えるために～
- 12 KWASSUI からはばたく
佐藤 桃さん
堀 華純さん
- 14 活水人物伝～しなやかに生きる～
鈴木 麗子さん
- 15 大学授業最前線⑤
新時代をリードする建築設計者の育成を目指して
- 16 サークルアクティビティ③
行雲流水の心を弦音に託して 活水高等学校弓道部
- 17 図書館司書 おすすめの本
- 17 Hello オフィス
学生生活支援課
- 18 Alumnae (アラムニー)
就活応援企画
- 20 My memory

表紙

活水同窓会の永吉美恵子会長からのご縁で、長崎の「おくんち」の手ぬぐい等、たぬき絵で大変馴染みの深い堤けんじ氏に、東山手キャンパスの東校庭で活水の歴史に関係の深い「メイボールダンス」を踊っている「たぬき絵」を描いていただいた。とっても愛らしくたのしげな絵である。

2024年、活水学院は創立145周年にあたり、秋冬号にも愛らしい「たぬき絵」が登場する予定である。



活水学院報題字：藤原 朱石



メイポールダンス

百有余年の歴史を刻む活水の伝統



上：エリザベス・ラッセル先生送別会

左：2022 年秋体育大会

右：シーラ・ノーリス宣教師送別会

メイポールダンスは、ヨーロッパの五月祭において伝統的に踊られるダンスで、春の訪れと豊かな収穫を祝う祭りの一環です。活水学院におけるメイポールダンスの歴史は長く、『活水学院百年史』によると、「1919（大正8）年5月10日活水デーの日、アメリカに帰国されるラッセル先生の送別会が開催された。午前中は講堂で式をあげ、午後は校庭に出て賑やかに活水デーの催しが行われた。83歳の女史は白髪童顔、メイクインとしてにこやかに高座につかれた。全校生徒はピアノの行進曲にあわせて入場し、それぞれ思い思いの花束を女史の膝下に捧げた。それから各クラスの生徒の遊戯や余興があった。メイポールダンスは全体の空気をもり上げ、校歌を合唱し、「ラッセル先生万歳」を三唱して閉会した」と記録されています。

活水高校では、体育祭で3年生全員がメイポールダンスを披露しています。また、バラ・イーストン宣教師やシーラ・ノーリス宣教師が祖国に帰国される際のお別れ会でも、有志によるメイポールダンスが披露されました。



KWASSUI

社会が求める人
×
活水が育む人



女性活躍のリアル ～自分らしく働くということ～

長崎県副知事 馬場 裕子氏

聖心女子学院高等科、2001年東京大学法学部卒業
同年国土交通省入省、2023年より現職

活水学院では、伝統を尊重しつつ革新的な教育を展開しています。今回、自治体や企業のトップリーダーが、多角的な視点で未来への懸け橋となる女性リーダーを育成する重要性を語ります。また、学院の最新の教育実践についてもご紹介します。

うつりゆく世にも
かわらないもの、かわりゆくもの

「女性が伸び伸びと活躍できない社会に未来はありません」

女性の就業について、例えば女性の正規雇用比率が、年齢の上昇とともに低下するシカーブを描いていることや、女性の管理職の割合が低いといった現状があります。その要因の一つとして、性別に基づく役割分担などの無意識の思い込み、いわゆるアンコンシャス・バイアスが女性のキャリアの可能性を制限していると考えられます。

女性が職場でより活躍するためには法的な枠組みだけでなく、社会全体で意識を変えることが必要です。

長崎県の取組として、男性の家事・子育てを促進する事業を実施していますが、国土交通省時代に育児を取得した同僚男性の体験談をご紹介します。同僚の一人は、新生児の成長を日々目の当たりにし、その経験が非常に有意義だったと語ってくれました。また別の同僚は、育児休業中に家事と育児を担い、パートナーへの理解につながったこと、また自分自身の家庭における役割の意識を大きく変えた

「2024年4月20日国際文化学部国際文化学科開設記念講演会より」

と話してくれました。このように、社会の変化に伴い、男性も女性も働き方を変えていくことが大切です。

また、自身が女子校出身であることから得られたポジティブな影響についても話したいと思います。女子校だからこそ性別に基づく役割分担意識にとらわれないで、たくましく挑戦できたことは振り返ってみれば貴重な経験でした。自己表現やリーダーシップスキルを自然に伸ばすことができました。このような背景が、社会に出た後も性別のステレオタイプに束縛されることなく、自分の意見を積極的に表現する力を育んだと思います。

人口の半分以上を占める女性が伸び伸びと活躍できない社会に未来はありません。本県では、民間や教育機関、行政が一体となって、女性活躍に向け、企業や社会の理解促進、女性のキャリア形成と意識改革などを進めています。皆さんとともに、根気強く取り組んでまいります。



ひとり輝かしい未来を創り上げること信じています。人生起こること全てに意味があるものなのです。活水学院での日々が、皆さんの人生においてかけがえない財産となることを願っています。

アサーティブコミュニケーション 自己表現と相互尊重のわざ

アカネアイデンティティズ株式会社 CEO 加藤 茜愛氏

1984年活水女子短大英文科卒、経営学修士(MBA)
全日空入社、TOP VIP部門責任者を経て2014年より現職



活水学院の新生生の皆さん、ご入学おめでとうございます。私もかつて活水学院で学びました。当時、多くの女性が家庭に入ることを幸せと考える時代でしたが、活水学院では常に新しいことへの好奇心やチャレンジを育む環境がありました。私自身、社会人として航空業界で働き、「相手を大切にすること」の重要性を学びましたが、その礎はここ活水にありました。

現代社会は多様性を受け入れ、環境保護と経済成長の両立を目指す重要な時期です。そしてAIやテクノロジーが社会を席巻していますが、人間だけが持ち得る「思いやり」や「創造力」そしてお互いの「関係性」が中心にあるべきと考えています。互いの違いを尊重しあえるからこそ新しい価値を生み出し、より豊かな世界を築くことができます。社会がいかに変わろうとも大切にしなければならぬ基盤はここにあります。

VUCA時代(変動性、不確実性、複雑性、曖昧性が特徴)にあっても、流されることなく、積極的に新たな機会を探求し、アサーティブなコミュニケーション、レジリエンス力、セルフリーダーシップを育てることが重要です。

もし時空を遡り、かつての自分に会うことができるなら、私は「自分の可能性を信じ、人とのつながりを大切にしながら、着実に一歩ずつ進んでいこう」と伝えたいと思います。

時に困難があるかもしれませんが、この学院で自信と勇気を培い、皆さん一人



生成AIとデジタル 変革時代への適応 活水の情報デザイン教育のリアル

看護学科1年生を対象にした教養教育科目「現代社会と経済」では、「AIと看護師で判断が分かれた場合」と題するグループ討議を行った。ウォール・ストリート・ジャーナルに掲載された記事を題材としたものである。

【テーマ】
人工知能(AI)が病院や患者ケアに組み込まれるようになるにつれ、看護師がアルゴリズムを上書きできるのか、AI診断がおかしいと感じたときにどう対応するべきか、といった疑問が生じてくる。

【記事内容】
米国立リフォルニア州サクラメントの看護師は、ある患者が敗血症に罹患している

とAIが警告したときのことを語る。規則では、患者に敗血症のフラグが立つた場合、看護師は手順に従う必要がある。AI診断を無効にすることも可能だが、医師の承認が必要であり、もし間違っていたら看護師自身が懲戒処分を受ける可能性がある。「テクノロジーを悪者扱いしているわけではなく、正しいことが分かっているからそれができないときには道徳的苦痛を感じます」。

「グループディスカッション」

日本の医療現場においてもAI診断が導入され、それに従った手順を要求される時代がくる。早期警告システムとして導入されるAIによって患者の生命を救うことにも寄与するだろう。一方で、AI診断に納得できないときどう考えるべきか。

学生たちが出した解決案は次のようなものであった。

- ① AIツールは、あくまでも臨床判断を支援するように設計するべきであり、看護師がAIを無効にできる条件を明確にする必要がある。
- ② 医師の承認を得てAIを無効にできるようにするなどのルールを設定する。
- ③ AIの限界やAIを臨床判断にどのように活用すべきかを学ぶための研修を実施する。

AIの導入は、医療や看護の質を向上させる可能性を秘める。一方でAIと看護師の臨床判断をどのようにバランスさせるか、情報や主張を分析し、論理的に考え、問題を解決するための思考プロセスを未来の看護師たちは真剣に学んでいる。



手話が織りなす絆、共感と成長の物語

影山桃さんは高校時代に芽生えた情熱を胸に、大学入学と同時に手話奉仕養成講座への挑戦を決意。好きな学業に取り組み講座も見事修了し、その学びをいかすため地元の手話サークルに参加しました。聴覚障害を持つ人々との交流を通じて、彼女はコミュニケーションの本質と共感する力の重要性を実感しました。単に「手助けしたい」という思いから一歩進んで、「本当に必要な支援は何か」を考えながら実践を積み重ねたことが、自身の成長につながりました。

影山 桃さん

NHK 学園高校卒、2024年3月
国際文化学部日本文化学科卒、
長崎県庁入職

**無限の好奇心
多様な学問への探求のきっかけとは**
私はもともと日本文学に興味があり、活水女子大学に入学しました。授業では日本史や長崎の文化、日本語教育といった多岐にわたる分野に触れ、また、図書館司書資格の取得にも挑戦することで情報検索の技術を習得することができ、他の授業にも大いに役立ちました。



文化の架け橋
課外活動を通じた文化交流

**多様な未来への一歩
キャリア形成の探究**
茶道部の部長また漫画研究部の一員として、課外活動においても多様なバックグラウンドを持つ人々との出会いを大切にしました。特に茶道を通じた文化交流は、私にとって新たな視点と深い学びの場となりました。



より、幅広く業界や企業を知ることができました。また、活水は公務員専門学校とも提携しているため、公務員を志望している人にとってはとても学びやすい環境だと思います。最終的に長崎県庁の教育事務への就職が決まりました。

**後輩たちへのエール
ぜひ積極的な社会参加を**
コロナ禍によりオンライン授業が中心となる中、私は対面でのコミュニケーションの大切さをより深く感じるようになりました。この経験から後輩たちに対して、社会との積極的な接点を早い段階から持つことの重要性を伝えたいと思います。どうか、新たな挑戦を恐れずに勇気を持って前進してください。

子ども食堂とヤングケアラー支援が 紡いだキャリア形成

ボランティア活動で学んだ地域コミュニティとの関わり、困難を抱えた子どもたちへの支援のあり方など、これらのおかげがえのない経験は私の大切な財産です。

大学での一番の思い出

私が一番印象に残っているのは、「健康教育活動の研究」の講義です。模擬授業の準備を通じて、教育の現場がいかに複雑であり、同時に楽し



いものであるかがわかりました。授業運営の難しさと挑戦の喜びは、得難い思い出です。学外活動では子ども食堂のボランティアが特に印象深いです。子どもたちが安心して過ごせる環境や頼ることのできる場所づくりの重要性と、問題解決のために自分一人では難しいことも専門家や他の場所へ「つなげる」役割の大切さを学びました。

実習がキャリア形成につながった
教育実習や保育実習を経験したこ



田代 結子さん
大村高校卒、2024年3月
健康生活学部子ども学科卒
長崎県養護助教諭入職

とが、職業選択に大きく影響しました。現場での実際の業務内容や、子どもたちとの関わり方を学び、自分の将来像を具体化することができました。また、ヤングケアラー支援に関する活動を通じて、多様性の理解と共感を深めました。これらの経験は、視野を広げる大切な気づきとなりました。

活水を選んだ理由と 後輩たちへのアドバイス

養護教諭一種免許状や保育士資格、幼稚園教諭一種免許状を取得できる点です。結果として、先生方の手厚いサポート、また、就職支援室や就職課の職員の方々も、夢の実現に向けて熱心に関わってくださいました。後輩たちには、キャリア形成を支援してくださる多くの教職員の方々との接点をもってほしいと思います。それから、家事の手伝いは早いうちからぜひ！



冴えわたる月のように輝く!

湯屋敦子プロフィール

1989年活水女子短期大学英文科卒業、文学座附属演劇研究所を経て劇団昂に所属。俳優・声優として活躍中。アニメ名探偵コナンの佐藤刑事、吹き替えではアンジェリーナ・ジョリー、ゲームの声ではジル・バレンタイン等がある。

先輩たちの今

Close up ⑤

俳優・声優

湯屋 敦子さん

「名探偵コナン」佐藤美和子刑事登場

今や国内外のアニメファンから愛される声優として、そして舞台人として、その地位を不動のものにしている湯屋さん。しかし、ここまでに至る道のりは、平坦なものではありませんでした。湯屋さんが歩んできた道のり、活水時代の思い出をうかがいました。

おとなしく自立たない少女が 活水で転機

おとなしくあまり自立たない真面目な子、家庭でもあまり喋らないほうでした。言いたいことがあるのにと、いつも頭の中で色々な考えを思い巡らせていました。転機が訪れたのは活水中に入学し演劇部のパフォーマンスを見たときです。あまりの斬新さ、はっちゃんけぶりに心揺さぶられました。表現の世界がこんなに素晴らしく楽しいものかと、どっぷりはまりました。思いを言葉にのせて語るセリフをみんなが聞いてくれるという喜びに浸ることができました。その勢いのまま高校、短大と演劇の道を進みました。短大には演劇部がなく、友人を誘い長崎大の演劇サークルに入部、授業後は長崎大の文教キャンパスに通う日々でした。短大



2年の秋、活水の東山手キャンパスの大チャペルで、シエイクスピアアの『十二夜』を女性だけで公演。双子の兄妹セバスチャンとヴァイオラの二役を演じただけでなく、プロジェクト全体を統括する責任者や制作面で指揮をとる監督、また広報の役割も担当しました。もちろん、たくさんの仲間が協力してくれたからこそできた一大イベントです。



劇団昂 [WE HAPPY FEW 我ら幸運な少数] (2023年) 撮影=梅原渉

活水時代の思い出の恩師

多くの先生方のお名前が浮かびますが、草野十四朗先生は恩人です。活水高時代、演劇部が存続の危機に立たされた時、顧問をお引き受けいただきました。火中の栗を拾ってくださいったことに感謝の気持ちでいっぱいです。母校を巣立ったあとも、交流させていただいています。

社会人としての職業選択

演劇の勉強を続けたい気持ちはさらに高まり、卒業後上京し、文学座附属演劇研究所に。その後、劇団昂(すばる)専攻科を経て、現在に至っています。劇団に入ってから、声優の仕事の声がかかり、そこから一気に声優の道が広がっていきました。ただ根っから演劇一筋、声優業について知識がありませんでしたので、当初はなかなか慣れず、できるまで居残りさせられたこともあり。また何回もとり直しして声を演じたこともあります。この仕事に向いていないと感じたことも数知れず。悔しい思いをたくさんしましたが、生来負けず嫌いなんだと思います。やり通してきました。声優の仕事は海外ドラマの吹き替え、アニメやゲームの声、ドラマ、ナレーション、CMやラジオ、分野はさまざま。ただ声優も俳優も、仕事の根本は同じだと思っっています。今は声優がドラマや



憧れの先輩と一緒にした 仕事のなかの喜び

映画に出演したり、歌やダンス、多方面で活躍しバリエーションもさまざまです。

声優の仕事を始めると間もない1994年のこと、フジテレビで放映された映画「ローマの休日」で、靴売りの女/フランチェスカ役で吹き替えを担当しました。「ローマの休日」といえば、オードリー・ヘップバーンの声優で知られる池田昌子さんは憧れの

自分自身への叱咤激励

「しのごの言わずやる」。現場では限られた時間で、作品を創っていかなければなりません。自分の役作りに関して、ディレクターから、「もう少しこういうエッセンスを足して欲しい」と言われたとき「しのごの言わずにやる」。これをモットーにしています。難しい演技を要求されることもありませんが、できませんでは通らない世界。何回でもとり直しに耐えますし声を演じて構いません。作品が良ければいいのです。

後進を育てる

今年から、日本芸術専門学校の声優コースの講師を担当しています。若い人たちには可能性がたくさんあります。私自身決して順風満帆ではなかったのですが、ここまでくることができました。生徒たちには隠れた可能性を少しでも引き出してあげられるような役目を担おうと気を引き締めています。

母校の後輩たちへ

いま目の前にあることに真剣に取り組んでみてください。いずれ必ず自分でもあります。一瞬一瞬を大切に、興味を持って体験し、周りに感謝して日々過ごして欲しいです。ソーシャルメディアなど様々な媒体で情報が得られる便利な世の中ですが、実体験に勝るものはありません。何にでも挑戦してみてください。たとえ失敗してもそれは成長への糧です。そこから得られる教訓もたくさんあると思います。新たな道も開けるかもしれません。失敗を恐れず挑戦してみてください。

もう一つ、心の琴線に触れるような感動を与えてくれる本や映画、音楽、また想像力・創造力を掻き立てられるもの、感性を刺激してくれるものたくさん触れてください。それらとの出会いが、内面の豊かな感情を呼び覚ますでしょう。そのなかから湧きあがる感情を捕まえてみてください。そう考えますと、なんだかワクワクしてきませんか。

私自身、これから先、立ち止まることはあっても、舞台やさまざまな場面で表現することは続けたいと思っています。

※抽選で湯屋敦子さん直筆サイン色紙をプレゼントします。巻末の読者アンケートから応募をお願いします。



▲ながさき実り・恵みの感謝祭で提供した唐揚げ3種盛

ふさがらないように片手で持ち運びができること、食べる時に手が汚れないことを解決させました。

松田／他にも飽きさせない工夫。様々な味を層にして、上から順に食べても美味しいし、全部混ぜても美味しいし、手に取った人の食べたい食べ方で食べられるものを目指しました。パツこととて、例えばパフェの立体感を出すために考えたことが「ザクザクヒラスティック」の開発につながりました。衣にコーンフレークを使うことによりザクザクとした食感を実現させました。これがヒラスの食感や味にとってもマッチするんですよ。

次に、ながさき実り・恵みの感謝祭での取り組みについて教えてください。

横田／ながさき実り・恵みの感謝祭では、長崎大学の「魚料理研究会」の学生さん



女子大学生が挑む！ 長崎における魚食の普及推進

長崎の水産業を支えるために、

活水女子大学は、長崎大学を代表機関とする「ながさきBUJECOノミ」(COI-NEXT)に参画しています。活水女子大学では、長崎の水産業活性化につながる魚食文化の基盤をつくる目的で学生の団体「She-Side」を立ち上げました。現在She-Sideは魚食普及推進のツールとなる商材の開発を行っています。本稿では、2023年度の活動についてShe-Sideの学生と共に振り返ります。

学外・地域連携センター長 池田 光吉



まずは団体名を「She-Side」と名付けた背景を教えてください。

全員／海のすぐ側にある活水女子大学の学生が魚食の推進の発信源となるというのが由来です。「She」は、「私たち活水女子大学の学生」を意味していて海の「Sea」ともかけています。「Side」は、「私たち側から発信する」という意味と、活水女子大学発祥の地である東山手キャンパスが海のすぐ側にあるので「Side」の意味も含まれました。

地域における魚食の推進や活性化を考えたときに、魚食が積極的に進まない要因についてどのように考えましたか？

松尾／いくつかのポイントがあると思っています。「調理が面倒」「調理法を知らない」「値段が高い」「生臭い」「小骨が多い」「そもそもあまり食卓に上がらない家庭も多いのでは？」などの点です。牛、豚、鶏などの畜肉と比較するとよく分かります。市場に出回っている畜肉の

殆どがすぐ調理できるかたちに加工された状態で販売されていますが、魚は自分たちで処理しなければならぬ場合がある部分の生ゴミが沢山出ますし、不快な生臭さもあるので嫌です。食べる際も、例えば焼き魚やアラ汁にしたときは、小骨をとりながら食す場合もあって面倒です。これらのことを踏まえると、やはり調理が楽で値段もお手頃な美味しい畜肉を選んじやいますよね。実際に私たちもそう思っていました。

魚食の活性化を進めるなかでキャッチコピーとしていた「Z世代からZ世代へ」についていかがですか。何故そのようなアプローチを考えたのか詳しく教えてください。

松田／意気揚々と「長崎で魚食を促進して地域課題を解決するぞ！」という熱い想いでスタートしたのは良かったのですが、あまりにも範囲が広すぎてどこからと協働させていただきました。市場に出回らない未利用魚に着目し、来場者の方々に長崎で獲れる魚の種類の豊富さとそれらの美味しさを広く知ってもらうことをコンセプトに「あげQく食べて挑戦お魚クイズ」という商材を開発しました。使用した魚はウツボ、コロダイ、イラです。来場者の方には魚の正体が分からない状態で唐揚げとして提供しました。使用した魚の写真を予め提示した上で実際に食していただいて、どの魚か当ててもらおうクイズ形式になっていました。どの層にもとても好評で、特にお子様には大人気でした。さらには有識者や漁業関係者の方など魚のことに造詣の深い方々も多く来られて色々教えてくださいました。とまずく勉強になりました。唐揚げもお陰様で両日早い時点で完売しました。

実際に活動を進める中で気付いたことはありましたか？

松尾／最初はお肉の方が美味しいという先入観がありました。活動の中で実際に魚に触れて捌いて食した時にすごく美味しさと感じたことです。その他にも、同じ調理方法でも魚種が違くと味や食感などの嗜好性が全然違っていてそこが畜肉との大きな違いだと思いました。なので魚を使った商材開発には無限の可能性を感じました。だからこそ商材開発がすごく難しいんですけどね。普段私たちが食べる畜肉は、牛、豚、鶏くらいしかありませんし、料理のレパートリーもすごく沢山あるというわけではありませぬ。しかしながら、魚は同じ料理でも魚種が違くと全く違う嗜好性があるので、そこが大きな魅力だと思いました。さらに長崎は漁獲される魚種の多さは日本一です

手を付けていけばよいか分かりませんでした。そこで、いきなりマクロの視点からアプローチすることはやめて「小さいところなんだけど大きな効果を見込めるのは何だろうか？」「情報発信力や拡散力がある層ってどこだろうか？」という視点で議論し、辿り着いた答えが私たちが「Z世代」でした。この議論を通して、若者の魚食離れが進んでいるのなら同じ若者の私たちが魚食活性化を進めていこうじゃないかという熱い想いも生まれました。

横田／一番重視した点は見た目ですね。初見でのインパクトやSNSでの映えを考えときに真っ先に思い浮かぶのが「かわいらしさ」です。ここが私たち女子大学生の本領発揮かなと思います。後述しますが開発した「パフィッシュ」は自信作です！開発の途中でテレビでも紹介され、お陰様で提供当日は多くの方にお越し頂き短時間で完売しました。

開発した商材について、まずは螢雪会で提供されたパフィッシュについて教えてください。

古川／当初は家庭での普及を想定して家でも簡単に作れるレシピ開発を行っていましたが、途中で「いや待てよ。まずは積極的に食べてもらわないと意味が無いんじゃないか」ということに気が付いた目重視へ方向転換しました。その後、試行錯誤の末に完成させたのが自信作の「パフィッシュ」です。パフェとフィッシュを融合して名付けました。パフィッシュのアプリールポイント挙げますね。先ずは見た目。これは写真をご覧頂ければと思いますが、SNSで映える見た目を重視し、かわいらしさ女子大学生らしさを表現しています。次に手軽さ。両手が



▲活動の様子 (ながさき実り・恵みの感謝祭@水辺の森)

から、魚を使った商材開発に益々魅力を感じています。

溝口／同じ魚でも色んな呼び名があることが面白かったです。出世魚と呼ばれる魚は、成長段階ごとに呼び名が変わったりしますがそれではなくて、地域で呼ばれている名称(地方名)があることです。例えば商材開発で用いた魚だと、ヒラマサをヒラス、イラをナベタン、ウツボをキダコと言ったり。また、お魚に関しては食わず嫌が多いんじゃないか？と思いました。そもそも家庭の食卓に魚料理が上らないと魚の美味しさに気付かないというか分からないです。すね。

松尾／商材開発の過程で、実際に魚を丸の状態(処理されていない状態)から調理すると、意外とキレイにさばけることが分かりました。

これからの展望や目標を教えてください。

古川／開発の途中で断念した「カマスロール」を完成させたいですね。これは私たちがお気に入りでもあるので、新年度は早速商品化に向けて改良に着手したいと思っています。そして、螢雪会やながさき実り・恵みの感謝祭での小さなお



▲開発途中のカマスロール

子様とのやり取りを通して、魚を使った食育も促進したいと感じました。

溝口／ネットや本で調べるよりも、直接人と関わるのが一番の学びになることは大きな発見でした。様々な人と直接話す事で得たものが多かったため、魚食の推進と活性化を目指して、人と人をつなぎ魚の魅力のShe-Sideから伝えていきたいと思っています。

全員／最後に強調して言いたいことは、これらの取組は私たちの力だけでは成功させることができなかったということです。特に、地元の業務用食品卸企業の協和商工株式会社様、長崎市さしみシテイ、長崎大学の魚料理研究会の皆様からは多大なお力添え賜り、協働を通して勉強させて頂きながら私たちShe-Sideの活動の基盤をつくることができました。あらためて心より深く感謝申し上げます。そして、魚食推進に興味関心がある後輩達に是非She-Sideの活動に参加してもらいたいなと思っています。私たちの熱い想いを引き継いでいって欲しいなと思っています。

「She-Side」として開発に取り組んだメンバー (食生活健康学科 4年)





一緒に、世界は変えられる。

Change the future, Create the next

大学での経験が社会で生きる
現在は、東京海上日動の営業部門で事務や営業支援業務に従事しております。主に代理店さんからの保険の引受やお金まわりについてのご質問にお答えすることや、新商品や新施策について代理店さん向け勉強会を実施しております。3年目からは通常業務以外の採用業務にも挑戦したいと思い、九州エリアの採用活動に立候補し企画運営などをしております。

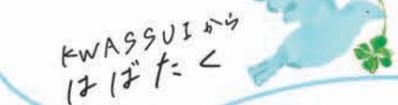


大学での経験が社会で生きる



社会インフラ企業の一員として

私は大学を卒業してから、セコムグループの集配金サービス事業に特化している警備会社へ入社しました。このサービスを通じて、人々の生活を安全安心に支える社会インフラ企業の一員として、日々、業務を行なっています。



から へ
は ぼ た く
KWAASSUI

部活動で培った精神力と仲間との絆

活水高等学校卒
2023年活水女子大学国際文化学部英語学科卒
アサヒセキユリテイ鳥栖オフィス勤務

佐藤 桃さん

業務内容はお客様から売上金を回収しお預かりした売上金を会社に持ち帰り精査、銀行入金し、一方でお客様の要望の釣銭用のお金を作成し、お届けする事です。お客様が負担と感じている釣銭準備、売上金精査や危険性のある銀行入金を当社がお客様に代わって行っている会社です。その中で私は釣銭作成課という部署に所属しています。高校のバドミントン部での経験が今の私を支えている

新しい環境に馴染むのに少し時間がかかりましたが、周囲の方々の温かいサポートと励ましで、徐々に自分の場所を見つけていくことができています。高校時代には、バドミントン部に所属していました。バドミントンは私にとって、単なる部活動以上の意味を持っていました。それは、仲間との絆を深め、部活動を通じて成長する貴重な経験でした。入社後も、高校時代の友人たちとの

やりたいことに挑戦できた学生時代が今につながる

2021年活水女子大学国際文化学部英語学科卒
東京海上日動火災保険株式会社勤務

堀 華純さん



ど人前で話す機会が多くありましたので、代理店さん向けの100名規模の勉強会で司会をしたり、採用説明会など人前で話すことに対する恐怖心は少なく、大学時代の経験が役立つているかと思えます。また、大学在学中は、アルバイトやボランティア活動、留学など自分が興味のあることや、やりたいことに挑戦できる環境のおかげで様々なことを経験できました。多くのことに挑戦した経験のおかげで、社会人になってからも興味があることに挑戦することができていると感じます。

これまでで一番楽しかったこと

入社して一番楽しかったことは、社内対抗運動会です。社内にコミュニケーション＆レクリエーションチーム

繋がりを大切にし、定期的に連絡を取り合い、互いの近況や思い出話に花を咲かせています。

友人との交流は、私が社会人として新たな一歩を踏み出す上での大きな励みとなっています。当時の仲間の成功や喜びに触れることで、私も前進する勇氣や活力を得ることができました。学生時代にバドミントンで培った精神的な強さやチームワークの重要性は、職場での日々の業務にも生かされています。仕事においても、挑戦や困難に直面した時には、バドミントンで身につ



けた忍耐力や努力の精神を思い出し、前向きに取り組むことができます。また、バドミントンを通じて身につけた目標設定や効率的な時間管理のスキルも、仕事の効率化に役立っています。

周囲の方に支えられて

入社してからは、先輩方や上司との良好な関係も築いてきました。特に、各部署の部長のサポートは私にとって大きな励みとなっています。

ある部長は、私の努力や熱意を認めてくださり、時には「頑張らなくていいよ」と声をかけてくれました。その言葉には、私が入社してからこれまでどれだけ頑張ってきたかを感じ、さらに前へ進む力を得ることができました。社内色々な方との信頼関係を築きながら、私は自己成長を遂げることができると感じています。そして改めてこの会社に入社して良かったと感じます。

私のモットーは常に「自分らしく頑張ること」です。

これからも、部署や会社に貢献し続け、私を支えてくれる周りの人を大切にしながら私らしく成長し続けていきたいと思っています。

今までの経験を大切にしながら、常に向上心を持ち、新たな挑戦に果敢に取り組みでいきながら、バドミントンで培った精神力と仲間との絆を胸に、新たな一歩を踏み出していきます。



があり、課支社やビルを問わず支店一丸となって親睦を深めるイベントを運営しました。部署やビルの垣根を超えてイベントを開催することで、普段話す機会がない社内の方とも話すことができ、その後の仕事でも連携が取りやすくなりました。社内には、いつか私もこんな人になりたいと心から思える先輩方や、切磋琢磨できる同期、刺激をくれる後輩がおり、社内のメンバーと過ごす日々が大好きです。そういった方々と仕事ができることは刺激でもあり、仕事をしている中でも楽しいと感じることが出来る時間だと思えます。

学外での経験について

大学在学中はアメリカに4か月留学をしておりました。当初は初めての海外で食事や環境、文化などになかなか

適応できないことに加え、英語の授業にもついていけず苦しい期間を過ごしました。

それでも現地の先生や友達に支えられ、授業だけでなく現地でのイベントに参加するなど楽しい時間を過ごすことができました。帰る時にはアメリカ人の友達が日本語で手紙を書いてくれたり、帰りの飛行機で泣きながら読んでくれたり、辛いこともありましたが、いい出会いに恵まれた人の温かさを改めて感じる事ができた充実した4か月でした。帰国後は、多くの方に支えていただいた経験を活かし、日本で海外の方の支援をしたと思います。日本語教員のアルバイトやボランティア活動に参加しました。日本に暮らす海外にルーツのある方たちの生活について考えることができたのは、自分自身が海外での生活を体験し視野が広がったからだと感じています。

先輩へのメッセージ

様々なことに全力で挑戦することで、勉強や遊び、アルバイト、ボランティア活動、やってみよう、自分の成長につながりそうなことなど興味があることに全力で取り組んでみてほしいです。楽しいことだけでなく、思い通りにいかないことや失敗することもあるかと思いますが、様々なことに挑戦する過程で多くの人と関わることで、将来的にはいい経験だったと感じることができると思っています。

A Silent Ovation

たおやかな人生に万雷の拍手を



活水人物伝 ～しなやかに生きる～

50代米国留学、70代英語自伝出版

鈴木麗子さん

戦後の混乱のなか、裕福な家庭に育ちながら、度重なる困難や不幸に遭遇。その後導かれるように米国へ留学。そこで出会った学問との真摯な対話、学友たちとの心の交流を通して、過去の恩讐は癒され本来の自分を取り戻し、見守って下さる「存在」を確信。一女性の勇気の足跡です。



——福岡の実家を飛び出し、活水へ進学されたことが人生の新たな一歩となったのですね。活水時代の思い出を教えてください。

鈴木／はい、活水での学びが私の人生の扉を開いてくれたのです。特に印象に残っているのは、エリザベス・クラーク先生の英語。クラーク先生の授業は、自分の頭で考えることの重要さと表現力を鍛えてくださいました。これ以上勉強したことがないほど熱中して学んでいました。知識を超えた深い理解と自立した思考を育んでくれました。テキストの「Profiles in Courage」は、擦り切れるほど読みました。

——その後、結婚、出産、夫との死別などを経て50代、ランドルフ・メイコン ウーマンズカレッジ(当時)への留学を決意。印象に残った思い出を教えてください。

鈴木／米国の大学には一定年齢以上の学生に対する経済的な優遇措置があります。高等教育を受けることで、人生をやり直すサポートを提供する制度です。そこで出会った教員や学生たちとの交流は、私に学問する喜びと人生の豊かさを教えてくださいました。年齢を超えた学び直しは、多くの気づきを与えてくれるものです。それが一番の思い出です。活水や福岡女学院から留学に来ていたクラスメートとは今でも交流があります。

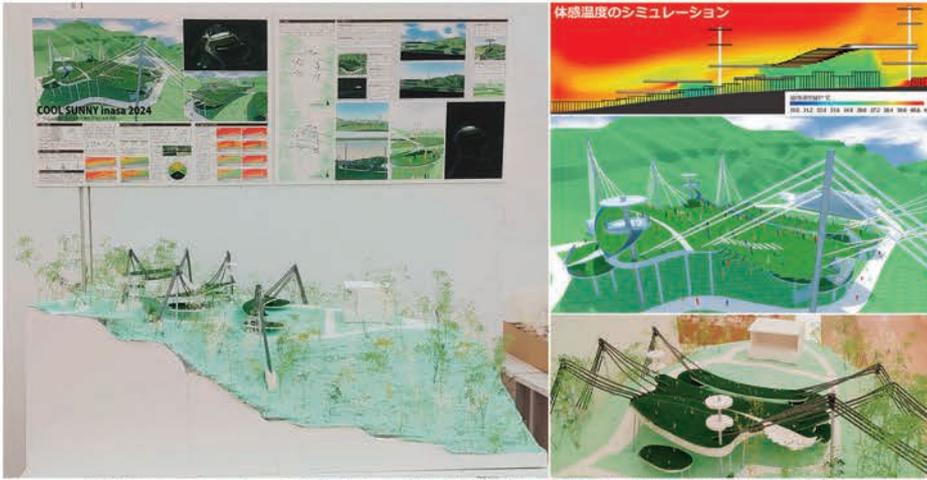
——「Silent Ovation」は静かな拍手という意味ですが、英語で執筆された動機をお聞かせください。

鈴木／一人の日本女性の生き方を英語圏の人々に紹介することでした。過去の困難やトラウマについて書き記すことで、私は内面に秘めていた負の感情を浄化することができま

した。以前の私は自らを見放された存在と感じていましたが、その忌まわしい過去を清算し、本来の自分を取り戻すことができました。そして、常に私を見守ってくれる「存在」の確かさを心に確信することができました。

——本学の現役生に向けたメッセージをお願いします。

鈴木／活水は、自己発見と表現の場として素晴らしいステージ。自分の頭で考えること、自立した思考と行動が人生を成功に導く鍵です。行動を妨げる理由をあげるのではなく、自分自身のやりたいことはなにかよく考えてみましょう。そして夢を追い求めてください。人生の主役は、他ならぬあなた自身なのでから。



環境シミュレーションを活用した学生設計作品（稲佐山公園の暑熱環境改善提案）



大学授業
最前線

⑤

生活デザイン学科

新時代をリードする 建築設計者の育成を目指して

生活デザイン学科では、建築、インテリア、グラフィック、Web、プロダクト、ファッションなど、生活に関する様々なデザインを学ぶことができます。私は建築分野の教員ですが、その中でも環境・設備を専門としています。建築物は空調や照明の使用によって多くの温室効果ガスを排出することから、省エネな運用が可能な建築物を設計することが求められます。しかし、省エネを優先させることで快適性や健康性を損なってはいけません。「建築環境工学」、「環境論」、「建築設備」などの授業では、省エネ性、快適性、健康性の全てを高いレベルで実現させるための知識を学びます。これらの知識は、脱炭素社会の実現やSDGsを達成するために必要不可欠です。

建築設計の実践的な授業も担当しています。業界では、3Dモデル作成と様々な情報の入力を行い、そこから図面を自動生成可能なBIM（ビルド・Building Information Modeling）と呼ばれる設計手法が普及し始めています。生活デザ

イン学科でもBIMによる建築設計教育を実践しており、私が担当する「建築製図CAD」では、BIMソフトの操作手法をマスターします。

更に、一部の授業やゼミでは、環境シミュレーションを導入しています。BIMの3Dモデルを活用して、建築内外を流れる風や温熱環境、光環境をシミュレーションし、その結果に基づいた建築設計提案を実践しています。このような環境シミュレーションツールを活用する設計者はまだまだ少数ではありますが、地球温暖化対策が喫緊の課題となっていることから今後広く普及していくでしょう。

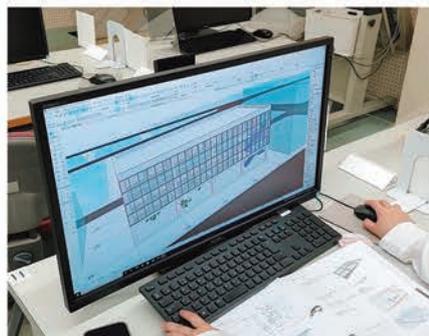
また、長崎には美しいだけでなく、最先端の技術が導入された建築物が多くあります。それらの建築物を見学する機会を積極的に設け、学生の興味、関心を引き出すようにしています。

以上のような教育を通じて、学生には新時代をリードする業界のトップランナーに育ってほしいと願っています。

（授業担当：小畑 拓未先生）



建築見学の風景（長崎市役所）



BIMによる建築設計演習



光環境シミュレーションの演習



普通科、英語科、特進、総合進学コースの32名が在籍



活動の節目には幹部生徒が矢渡しを披露する



サークル
アクティビティ

③

活水の 弓道部

行雲流水の心を弦音に託して

大きく引いて、まっすぐ離せ

本校の弓道部は、「行雲流水」の精神を射の心として、長崎市営弓道場を拠点に活動しています。部員のほとんどが初心者から弓を始めますが、試合や昇段審査に向けて日々研鑽を積み、2023年度は公式戦を含む多くの大会で団体優勝を勝ち取るまでに成長しました。

長崎大学や男子校弓道部への出稽古、県外合宿にも赴き、視野を広げています。例年、全国私学大会にも出場し、東京や大阪、名古屋で全国の強豪校と競い合っています。また、北海道の学校とのオンライン対戦をするなど、新しい挑戦にも積極的に取り組んでいます。

三年生の引退式では、全員が着物に身を包み、坐射や矢渡しなどの演武を披露します。

さらに、一部の大会運営にも生徒自ら携わっており、競技者としてだけでなく、運営者としての視点や責任感を養っています。

弓道を通して培われる精神、それは過去の悔いや未来への憂いに心を奪われず、ただ一射に魂を込める心の在り方です。この心構えは、女性が力強く人生を歩む上でも、かけがえない糧になるでしょう。

(顧問 梅本雄史先生)



【2023年度の団体入賞記録】

長崎県高等学校弓道選手権大会 優勝
長崎市長・市議長杯争奪弓道大会 優勝
多良雲仙弓道大会 3位
長崎地区新人体育大会 優勝
長崎県高等学校新人体育大会 優勝
長崎市民体育・レクリエーション祭 優勝
長崎南ライオンズカップ青少年弓道大会 優勝
長崎地区弓道選手権大会 優勝

弓道着に憧れて入部しましたが、先生方のご指導のおかげで昨年は地区新人戦、県新人戦のメンバーに入ることができました。これからも弓を引く喜びを仲間と共有していきたいです。



活水高等学校3年生
主将:森田 紗弥花



【練習場所】

長崎市営弓道場。浦上川と下の川の合流点に位置し、近的と遠的の両方に対応した設備を備えており、大会や審査の会場となっている。



【外部監督の紹介】

真崎 孝之 先生(教士七段)
長崎市弓道連盟会長。弓道部発足当初から監督を担う。今なお現役で県内外の大会で多数入賞している。道場では小学生から社会人まで指導にあたり、選手の特性を生かした射技指導により、国体選手や高段位合格者を多く輩出している。

活水高等学校
弓道部

キラキラした
感性の宝石箱

贅沢な
旅行気分を
味わえる



Kwassui Library

図書館司書

おすすめの本

『続 窓ぎわのトットちゃん』

黒柳 徹子 著／講談社

誰もが知るベストセラー『窓ぎわのトットちゃん』の続編が、42年ぶりに刊行されました。前作が幼少期のエピソードだったのに対し、続編はトットちゃんの青春時代が綴られています。

太平洋戦争のさなか、東京大空襲から逃れて青森へ疎開、音楽学校卒業後、NHK専属女優へ、そしてニューヨーク留学に至るまでのトットちゃんの歩みが描かれます。戦後、東京のミッションスクールでの新生活、讚美歌とピアノの伴奏に心打たれ音楽の道を志したこと、初めて受け取ったラブレターの宛名が「ふかしたてのサツマイモのようなあなたへ」だったことなど、心温まるエピソードがちりばめられています。

辛く苦しい時代の話でも明るさを感じるのは、トットちゃんの瑞々しい感性や心のあり方が、読む人の心を照らしてくれるからでしょう。この本には、どんな困難があっても「諦める」という言葉はなく、常に前を向く勇気があふれています。ページをめくると、今のあなたに必要な言葉を見つけることができるかもしれません。

『祖母姫、ロンドンへ行く!』

樫野 道流 著／小学館

著者の英国留学の思い出話を聞いた祖母の「一度でいいからロンドンに行きたい、お姫様のような旅をしたい」という一言から、5泊7日の豪華英国旅行が決定されます。留学中は節約生活をおくっていた著者は、果たして祖母をお姫様のようにもてなすことができるのでしょうか……!?

祖母は自由奔放でマイペース。計画通りに進まない旅は、トラブルの連続です。それでも、祖母の希望を叶えるべくミッションを遂行していく著者の奮闘ぶりや、スーパーポジティブな祖母の金言や美意識はみどころのひとつです。「努力しなければ、ゼロのままだけど、百も努力すれば一か二になるでしょう。一でも違いは出るものよ。」こんな言葉がスツとでてくるのが素敵ですね。

また、飛行機はファーストクラス、ロンドンの5つ星ホテル宿泊など、贅沢の限りを尽くした海外旅行を存分に味わえます。美味しい紅茶とお菓子のおともにおすすめしたい1冊です。

学生生活支援課では、学生の福利厚生を中心にボランティア活動やクラブ・サークル活動など学生たちの様々な活動を支えています。中でも奨学金については、近年利用者も多く、学生の相談も増えてきています。父母会奨学金やグリーンズカラシップをはじめ、各種奨学金の特徴や応募条件などについて、定期的に説明会や案内を行い、学生への周知を心がけています。

そのほか、学生の心や身体の悩み、健康相談については、保健室やハートルーム（学生相談室）とも連携し、誰もが安心して学べる環境を用意しています。

2024年は、より楽しく、より充実したキャンパスライフを提供したいと考えています。大学イベント、とりわけ学園祭「雪雪会」を大いに盛り上げ、そのために実行委員、学生、教職員が丸となって取り組んでいきたいと思っております。引き続き学生支援に関する皆様からのお力添えをお願いいたします。



オフィス

〈学生生活支援課〉



業界研究会・セミナー

○全年次対象

～業界や企業を詳しく知ろう～

航空業界をはじめ、各種業界でご活躍されている現役の方を講師としてお招きし、業界の特徴や動向について詳しく解説していただきます。また、企業での仕事内容などについても説明していただきます。学生の個別の質問にも対応していただき好評を得ています。なお、現在のところ長崎県内の大学において、全日本空輸様による航空業界セミナーは本学のみとなっており、他大学の学生も参加する人気のセミナーとなっています。



就職マナー講座



○2年次～3年次対象

～社会人としてのマナーを身につけよう～

これから社会へはばたく就活生において、社会人としてのマナーを身につけることは重要なポイントの1つです。外部より専門の講師をお招きし、社会人としての立ち居振る舞いは勿論のこと、お辞儀の仕方から歩き方、コートのたたみ方までを学んでいきます。少人数毎のグループ指導により、一人ひとりに寄り添った指導を行っています。

リクルートメイク講座

○2年次～3年次対象

～就活メイクを学ぼう～

「就活メイクはなぜ必要なのでしょう。」その理由は、メイクすることが社会人としての身だしなみの一つだからです。就活メイクは普段遊びに行くときのメイクとは異なり、きちんと感と清潔感が大切です。第一印象が重要となるので、メイクを工夫して好印象を与えましょう。本講座は外部より専門の講師をお招きし、動画ではわからない就活メイクのポイントを学んでいきます。



SPI 対策講座



○3年次対象

～SPI 試験を攻略しよう～

SPIとは「Synthetic Personality Inventory」の略で「適性検査」のことです。基礎的な能力を測る「能力検査」と「性格検査」の2つから構成されています。就職試験として多くの企業が採用しており、近年は公務員試験においても選択できるようになっています。就活を進めていく中で受験する可能性が最も高いテストの1つです。外部講師による3日間の集中講座でSPI試験の出題傾向分析や解き方のコツなどを学び、採用試験における1次突破を目指します。講義の最終日には模擬試験を受験し、自分の実力を確認します。

この他にも、オンラインによる「グループ面接対策講座」を開講したり、エントリーシート等の添削、個人面接の練習や就職相談などを実施しています。さらに、一人ひとりの学生と卒業後の進路について個人面接を実施し、学生に寄り添った支援体制を整えています。



就職支援プログラム・就職課

就職課では、学生の社会的・職業的自立に向けた様々なプログラムを実施しています。また、進路について学生自身が自己決定できるよう個別での支援に力を入れています。

〈就活応援企画〉

就職ガイダンス



○2年次後期～3年次前期

～いよいよ、就職活動に向けた準備がスタート～

2年次後期から3年次前期にかけて、目標とする就職先に向けたガイダンスを実施しています。これからの就職活動に向けたスケジュールや心構えについて、キャリアコンサルタント(就職課員および外部講師)によるアドバイスを交えながら、レクチャーしていきます。また、公務員などの専門職に特化したガイダンスも実施していきます。参加する学生は、緊張した表情を見せながらも、自分の将来の夢の実現に向けて、意欲満々で就職活動準備がスタートします。

インターンシップ

○3年次対象

～業界・企業・職種理解を深める～

インターンシップとは、学生が社会に出る前に仕事を体験するための制度のことです。「就業体験」や「就労体験」とも言われています。キャリア支援科目である「インターンシップ」では、企業等での就業体験を行うことにより、職業意識を高め、必要な職業能力を認識し、「働くとは何か」を考えていきます。また、2025年卒業生からインターンシップの定義が「一定の基準に準拠するインターンシップで得られた学生情報は、その情報を採用活動開始後に活用可能とする」と改正されたことから、就職課でも学生の個別相談に力を入れています。

「採用と大学教育の未来に関する産学議会」により再定義されたインターンシップ4種のタイプ

タイプ	内容	目的
【「インターンシップ」と称さない】(取得した学生情報の採用活動への活用は不可)		
〈タイプ1〉	オープン・カンパニー	就業体験なし。個社や業界に関する情報提供・PR。実施日数は単日(半日程度)。
〈タイプ2〉	キャリア教育	就業体験は任意。働くことへの理解を深める教育。実施日数はプログラムによって異なる。
【「インターンシップ」と称して実施】(取得した学生情報は、3月以降は広報活動に、6月以降は採用選考活動に使用可)		
〈タイプ3〉	汎用的能力 & 専門活用型インターンシップ	就業体験必須。学生にとっては自らの能力を見極め、企業にとっては学生の評価材料を取得。実施日数は汎用的能力が5日間以上、専門活用型が2週間以上。実施期間の半分以上を就業体験に充当。
〈タイプ4〉	高度専門型インターンシップ	就業体験必須。修士課程・博士課程の大学院生が対象。学生にとっては実践力の向上、企業にとっては学生の価値材料の取得。実施日数はジョブ型研究が2か月以上。

キャリア形成講座



○3年次対象

～具体的な就職活動について理解する～

この講座では、外部講師によるアドバイスを交え、将来の目標や夢の実現に向けて自分自身の理解を深めながら、具体的な行動について理解していきます。自分にとって「働くこと」を明確にし、就職活動の流れを把握することで、今後の就職活動に役立てていきます。また、就職活動を終えた4年生を招き、これからの就職活動に係る様々な疑問に答えてもらうことで、準備を整えていきます。さらに、外部機関にて開催される合同企業説明会等の情報も提供しています。



生徒とともに
神さまに成長させて
いただいた活水での日々

活水中学・高等学校の東門に至る石段を、新規採用になった同僚と初めて登ったのは、一九八八年の春休みでした。途中で数名の運動部員が、顧問と覚しき女性の指導でトレーニングをしており、私たちが近づくと、練習を中断して爽やかな挨拶をしてくれました。後に、新体操部員と顧問の吉田真理子先生だったとわかるのですが、「この学校は、私の事を喜んで受け入れてくれている。」そう感じました。



東門へ続く石段

バブルの時代からリーマンショックを経て、コロナショック、生成AIの時代までを教師として過ごさせていただきました。バド

ミントン部監督として長崎インターハイに出場した事、老朽化した一号館が取り壊され五号館に生まれ変わった事、百回目のメイポールダンス発表会を実施した事、そして当たり前のように毎朝の礼拝を守ってきた事。世の中が



1号館旧チャペル (2011年)



2022メイポールダンス

目まぐるしく移り変わっても、活水中学・高等学校の教育の根底には、ラッセル先生が大切にされた聖書の教えが流れています。

在職時を振り返ると、「わたしは植え、アポロは水を注いだ。しかし、成長させて下さったのは神です。」(1コリント三・六)などの聖書のみことばがあったから、「思い悩むな」と生徒に語り続ける事ができました。それはまた、保護者・同窓生や関係する多くの皆様に支えられたからできた事です。そして生徒とともに、私も神さまに成長させていただいたのだと、改めて感謝の気持ちでいっぱいになります。



大岩 厚
活水高等学校・中学校
元校長



三人の博士

活水学院創立 150 周年記念募金「未来への架橋プロジェクト」

活水学院は 1879 年の建学以来、創立者であるラッセル女史が信念の拠り所としたキリスト教を建学の精神として、自立した女性を育てるという教育使命を担ってまいりました。これまでの歩みはひとえに皆様のご支援の賜物と感謝申し上げます。

2029 年、活水学院は創立 150 周年を迎えることとなります。「未来への架橋プロジェクト」では、国際交流を活性化するための奨励費新設、地域社会に根ざした知的インフラ構築の拠点としての東山手十二番校舎(旧宣教師館)整備事業など新たな飛躍のための事業を計画しております。建学の精神に堅く立ち、希望をもって「未来を担う女性」を育てる教育の実践にご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

ご寄付に関することは、学院総務課までお問合せください。TEL.095-822-4107(代表) ☒150bokin@kwassui.ac.jp



読者アンケート

活水学院報「Living Water」に関してご意見、ご要望をお寄せください。右のQRコードよりご入力ください。



活水女子大学 東山手キャンパス
〒850-8515 長崎市東山手町1-50
TEL 095-822-4107

活水女子大学 大村キャンパス
〒856-0835 大村市久原2丁目1246-3
TEL 0957-27-3005

活水高等学校・活水中学校 宝栄町キャンパス
〒852-8566 長崎市宝栄町15-11
TEL 095-861-5176



活水学院

※活水学院では、各種印刷物に使用する紙資材をFSC認証紙に切り替えることで、環境負荷を低減させ、持続可能な森林資源の活用を積極的に進めています。本誌もFSC認証紙を利用しております。

©Kwassui Gakuin. All Rights Reserved.